☆練馬区の子どもの実態の調査について

◎土田の問題意識

・ワークショップを実施するにあたって、練馬区の子どもたちの実態を知る必要性があると考えた。

・そこでネットで調べたが、見当たらず、小竹図書館に行って、２Ｆの奥・左側の棚で、練馬区関係の書籍を見たが、これだというものはなかった。

→まず、この練馬区の子どもたちの実態を調査したものがないということが一番の大きな問題だと思います。

◎実際にあった調査は…

・それらしきものとして見つかったのが、毎年度行われているらしい「練馬区児童・生徒基礎調査報告書」でした。ただ、その内容も、

・平成 21（２００９）年度は「子どもたちの人とのかかわりは、今」

・平成 22（２０１０）年度は「児童・生徒の規範意識は、今」という 2 冊だけでした。

・そして、この「児童・生徒の規範意識は、今」という冊子の中身を見て、自分が感じたことを述べてみると…

・まず、学校でのいじめや不登校、校内暴力などや、家庭での虐待、放任、貧困など、社会での十分な遊び場がない等の、子どもを取り巻く実態に焦点を当てることなく、いきなり「規範意識」というテーマの取り上げ方は、いかにも大人的な、管理的な態度に思えました。

・また、「規範意識」を調査するに当たり、まず適切な規範意識を身に付けるためには、その基盤として、生活の基本となる「生活リズムの確立」が大きくかかわってくると考え、「起床・就寝の時間」「目覚めた時の気分の良さ」「朝食の摂取」を初めに確認することにしたのはいいのですが、せっかく分かった子どもの状態をどう改善するかという視点は全くなく、あくまでも「規範意識」の視点でしか考えていない。

・その例として…

第１章　児童・生徒の家庭生活

問３「あなたは、寝る時間や起きる時間を決めて守っていますか」という質問への回答で、

「時間を決めているが、あまり守っていない」と「時間を決めていない」という良くない傾向の子どもが、中３で５４％、中２で５３％、中１ですら４４％もいるのに、どうしてそういう生活になってしまっているのかの原因を調べて、改善していくべきなのに、そういう問題意識は全く見られない。

問４「あなたは、毎日気持ちよく起きていますか」では

「気持ちよく起きることはあまりない」「気持ちよく起きられない」が、中３で５８％、中２で５７％もいるのに、どうしてこうなってしまうのかという考察、当然考えられる部活や塾等の忙しさへの対策も全く考えられていない。

問５「あなたは、朝食を食べて登校していますか」では、

「朝食を食べて登校することはあまりない」「朝食は食べないで登校している」が中３で１０％、中１でも７％もいるが、このことの理由を探り、解決していこうという視点はない。

問６「あなたは、夕食を家の人と一緒に食べていますか」では、

「家の人と一緒に食べることはあまりない」と「いつも一人で食べている」が中３で１７％、中２で９％もいるのに、分析と評価は「全体的には家の人と一緒に食べている児童・生徒がほとんどである」で終わっている。１７％もの子どもへの思いやりの視点はない。

＊しかも、問９の「いつも一人で食べている人に、どこで食べているか」の回答で、

「自分の家 19 人」「友達や近所の家１人」「塾や習い事の場所４人」で中には「車の中」という

回答もあったが、問題視していない。

そのほかの調査は
問６「あなたは家の人とおはようや行ってきます、ただいま、おやすみなさいのあいさつをしていますか」
問１０「あなたは、家の人と『ルールの大切さ』についての話をしたことがありますか」といったものだが、上記のような生活実態の子どもたちには、このような問いはあまり意味がないような気がする。つまり子どもたちの生活実態からすると、心身ともにもっと切実な問題があり、そんな観念的なことには気が回らないと言えないだろうか？

第２章　学校での生活ときまり
問１２「あなたは、学校のきまりを守ることは必要だと思いますか」では
『学年が上がるとともに「１、とても必要だと思う」の割合が減少し、「３、あまり必要ではないと思う」の割合が増加している。これは、学年が上がるとともに、自分たちにとって必要と感じられないきまりがあるからではないかと考えられる』と分析しているが、「なぜ、必要と感じられないのか」「それは本当に子どもにとって必要なきまりなのか」という視点は全くない。